

田富小だより

チャレンジ150山人会賞受賞

令和5年度
第9号
12月22日
田富小学校



回 覧

12月19日、甲府駅北口にある山田YBSホールにおいて、「第2回チャレンジ150山人会賞」を受賞して参りました。この賞は、山梨県内における青少年の創造力の開発育成のため、芸術、科学など文化活動の向上発展に寄与することを目的として、山田YBS厚生文化事業団が行っているものです。

田富小学校は、粘土節保存会の皆様のご協力をいただきながら、田富地区に古くから伝わる粘土節を学んでいます。田富地区が古くから水害に苦しんできたこと、その

水害に立ち向かった先人達がいたことを中心に総合的な学習等を通して学んでいくのです。そして、その活動は、3年生を中心に年々受け継がれていくのです。地域を知り、地域の方々と共に文化を伝承していくことが大切であり、その点が評価されたのだと思っています。

ここ数年は、感染症の拡大防止のため、以前のように運動会で「正調粘土節」を披露することはできずにいました。今は、授業参観等で保護者の皆さんに「正調粘土節」も披露している状況です。昨年度は、下級生にも見てもらい、次学年への伝承活動も行うことができました。中央市に生まれ育った子ども達が、自分たちの故郷を知り、将来大人になった時、よりよい中央市を担っていくことができれば、なんて素敵なのでしょう。来賓の方の挨拶では、「子ども達と地域が共に、地域の文化を創り上げていくことができるように」というお話をされていました。これからも地域の方々と共に、中央市田富地区の文化を伝えていければと考えています。

この賞の受賞にあたり、お世話になった粘土節保存会の方々、子ども達を支えてくださった保護者の皆さん、地域の皆さん、市教育委員会をはじめとする中央市の皆さんに御礼を申し上げます。ありがとうございました。



2つの出前授業

12月11日（月）には、地方病（日本住血吸虫病）についての出前授業、12月18日（月）には、日本の楽器、琴についての出前授業を行いました。

〈地方病出前授業〉

昨年度に引き続き、昭和町風土伝承館杉浦醫院で館長を務められている、元田富小学校校長の出井寛先生にお願いして授業をして





いただきました。今は撲滅している日本住血吸虫病は当時、原因も治療法もわからない未知の病でしたが、杉浦医師親子や研究者の不断的努力によって、ようやく病気について様々なことがわかっていきます。その様子を出井先生がとてもわかりやすく教えてくださいました。実物資料もたくさん見せていただき、子ども達は興味津々で授業に参加していました。粘土節もそうですが、地域を知ることの大切さやそこから学ぶことがとても多いことを改めて実感した授業でした。

〈日本の楽器：箏 出前授業〉

4年生の音楽の教科書には「日本の音楽に親しもう」という勉強があります。リコーダーや鍵盤ハーモニカだけでなく、日本伝統の楽器に親しむよい機会となりました。当日は、箏曲示範である講師の向井文先生が2つの箏を用意してくださいました。先生の「さくら」の演奏を聴きながら、日本の伝統的な楽器の音色の心地よさに、気分も自然とあたたかくなっていくのを感じました。その後、子ども達が箏に触れて、実際に演奏したり、普段見ているものとは違う、独特の楽譜を知



ったりと、とても有意義な時間を過ごすことができました。新しい年を迎えると、テレビなどで「春の海」が演奏されているのをよく聴きます。新春のおだやかな日に箏の調べを聞くのもよいものですね。



地域の皆様にも学校教育の一端を知っていただくという目的で行いました。1年生

地域での絵画作品展

12月中旬、玉穂生涯学習館の1階スペースをお借りして、昨年に引き続き「学校を飛び出す図画工作作品展」を開催しました。これは、1年生から6年生までの絵画の一部を展示し「子ども達にはこういう力をつけてもらいたい」など教師の意図がわかるような“指導者目線”の展示会としました。感染症の影響で以前のように、地域の方々に学校での教育をしていただく機会が減ってきた今日であるので、少しでも知っていただこうと思っての開催でした。ご観覧いただいたみなさん、会場を快くお貸しいただいた生涯学習館の皆様、ありがとうございました。



※ 保護者の皆様、地域の皆様、今年1年間田富小教育にご協力いただき、ありがとうございました。良い年をお迎えください。